

**郷土資料整理ボランティア**

# かがやき

唐沢矩子

No.39(2018.4.10 刊行)、広報委員会編集  
県立図書館発行  
禁複写転載©広報委員会

**特集 H29年度年次報告**

(あいうえお順)

**外国語資料整理ボランティア**

河村日佐男

(1)活動内容・状況について

- ・外国語の出版物について、図書カード作成の基礎データとなる書誌事項の和訳および簡略化した内容の和文の作成。
- ・英語・フランス語・ドイツ語・多言語の資料は、新着のものその他、収蔵分が多く総数 45 冊。

【編集者補足】人工数 64 人・日。

(1)活動内容・状況について

- ・図書館所蔵の古文書の解説および公開。
- ・図書館収納用の冊子作成および図書館 HP への掲載。
- ・2 ヶ月に、一度、集まり、それぞれの解説の進捗状況や疑問点などを話し合い、データ化・冊子化。
- ・HP 掲載作品に対する読者からの質問への対応。

(2)作業進捗状況

- ①作品の解説済み・校正済み・合本化  
「浅田兄弟敵討一件」「浅田兄弟敵討」「浅田鉄蔵復讐記」。
  - ②作品の解説済み・校正済み  
「安南漂流記」「魯西亜渡来記」「魯西亜漂流記」「漂民御覧之記」「異船諸説書集」。
  - ③作品の解説済み  
「水戸より江戸駅路記」。
  - ④冊子化進行中  
「志の飛音」「海防之集説」「駅路鞭影記」。
  - ⑤解説中  
「南遊日録」。
- ・団体など貸出用図書返却分の各分類別保管作業・整理作業。

【編集者補足】人工数 72 人・日。

## 広報ボランティア

桜井 淳

### (1)今年度目標

今年度は、少なくとも、通信紙を2回発行し、さらに、質と読者率を高める。

### (2)人工数

100人・日。

### (3)作業内容

編集した通信紙はNo.34-40。

### (4)作業成果

No.34は完成・掲載未手続、No.35はテスト版、No.36とNo.37は未完成、No.38は発行掲載、No.39は来年度用として原稿依頼。

読者率が約40%に到達。

### (5)次年度課題

- ①年2回発行(「年次報告」と「ボランティア論」)したい。
- ②目標読者率は80%に高めたい。
- ③通信紙表題の変更を検討したい。
- ④通信紙の発行組織の変更を検討したい。
- ⑤広報ボランティアの増員を図りたい。

## 三の丸書庫ボランティア

黒澤英宣

### (1)活動内容・状況について

- ・団体等貸出用図書返却分の各分類別保管作業・整理作業。
- ・団体など貸出用図書の点検・「県立」表示ラベルと透明シールの貼り付け。

- ・図書の修理作業。

【編集者補足】人工数 4570人・日。

## 児童サービスボランティア

上原淳子

### (1)活動内容・状況について

- ・「こどもとしょしつ」における「おはなしかい」の定期開催(延べ活動人数904人、延べ参加人数4597人)。
- ・研修会  
「腹話術研修会」参加者25人、「わらべうた研修会」参加者20人。
- ・こども読書フェスティバルへの参加。
- ・いばらき読書フェスティバルへの参加。
- ・班長会議3回。
- ・総会1回。

【編集者補足】人工数 24871人・日。

## 資料配架ボランティア

吉田善克

### (1)活動内容・状況について

- ・返却資料の配架。
- ・書架整理。

【編集者補足】人工数 12454人・日。

## 対面朗読サービスボランティア

人見佳子

(1)活動内容・状況について

・対面朗読 水曜班 0 回・日曜班 26 回(計 26 回、延べ活動人数 51 人)。

・訪問朗読 ナザレ園訪問朗読(10 回、延べ活動人数 63 名)。

・定例会・研修会 定例会 5 回、定例会及び研修会 5 回(計 10 回、延べ活動人数 37 人)。

・図書館行事参加

11 月 4 日読書フェスティバル古本フリーマーケット準備。11 月 5 日読書フェスティバル(古本フリーマーケット・館内探検ツアー) 延べ活動人数 5 人。

1 月 31 日ボランティア研修会参加。

【編集者補足】人工数 2816 人・日。

## 録音図書製作ボランティア

近藤淑子

(1)活動内容・状況について

・録音図書製作(短編集 2 冊)。

・定例勉強会・県南勉強会。

・名作を楽しむ会音訳協力(2 回)。

・読書フェスティバル館内探検ツアー協力。

・全国音訳ボランティアネットワーク総会・分科会参加。

・音訳研修会。

【編集者補足】人工数 25381 人・日。

## 特別企画

### ボランティア会に対する構造分析

広報委員会



社会科学の研究手法が記載された教科書(ナカニシヤ出版、1998)

広報委員会は茨城県立図書館ボランティア会の「構造分析」を実施している。その結果は通信紙 No.32 にまとめる。

「構造分析」は、最初から、5 年ごとに実施しなければならないことであるが、怠っていた。蓄積された貴重なデータが生かせなかったことはまことに残念。

ボランティア会に対する「構造分析」とは、過去 14 年間の年度別、ボランティアの全人数(男女別)、各グループの全人数(男女別)、さらに、各グループのデータ間の「多変数解析」により、単独のデータから直接的に読み取れない「隠れた情報」を浮上させることである。それ

は社会科学的研究における一般的手法である。

各データは、Microsoft EXCEL を利用し、最も分かりやすく表示できる円グラフか棒グラフか折れ線グラフにし、さらに、「多変数解析」の市販ソフトを利用し、各データ間の相関関係を解析し、隠れた情報を読み取り、ボランティア会の強さと弱さ、さらに、課題を明確にする。

各グラフと多変数解析から、全体を考察し、社会科学的なまとめを実施する。

### 編集後記

通信紙 No.39 の特集テーマは各ボランティアグループの「年次報告」です。

No.25 の「年次報告」の記載内容は、書式を指定していなかったため、各自各様のまとめ方になっており、各グループの活動内容の全体が読み取れませんでした。

そのため、No.31 に定めた投稿規定には「年次報告」のまとめ方の書式(今年度目標・人工数・作業内容・作業成果・来年度課題)を記しました。この書式は世の中の組織の「年次報告」のものと同じです。

ここで「人工数(にんくすう)」とは、何人の担当者が何日かかわったかの数値化であり、作業の規模を示し、単位は、人・日です。10人が10日かかわれば、10人×10日=100人・日となります。

正確な作業時間は、把握できないため、ボランティア作業の場合、具体的には、ボランティア室に置かれているチェック名簿の各自のチェック数を作業日数として、計

算せざるをえません。外国語資料整理グループと郷土資料整理グループは、県立図書館ではなく、自宅でもできるため、定義上、そのような寄与分は、考慮されません。そのような矛盾も含むため、あくまでも、ひとつの目安にすぎません。

「年次報告」をまとめる意義は、ボランティア全員が、各グループの作業内容を良く把握できるようになり、なおかつ、ボランティア活動記録としても残せます。

通信紙の発行は、原則として、年2回です。今年度のもう1回分は、「ボランティア論(No.30 参照)」「ボランティア経験・ボランティアにかかわる提案や新刊紹介などボランティアの質的向上に資する内容)に当てます。No.31 の投稿規定に則り、ボランティア各位からの投稿に期待します。

#### 【補足事項 広報グループの分析視点】

- 1) 資料配架グループ
- 2) 三の丸書庫グループ
- 3) 図書修理グループ
- 4) 外国語資料整理グループ
  - ・ 1)と 3)の処理件数は10年間で半減。
  - ・ 1)-4)はいずれも考察型記事化困難。
  - ・ 3)の作業内容把握(図書修理業者と技術の差)。
  - ・ 1)-3)については通信紙 No.25 参照。
- 5) 郷土資料整理グループ
  - ・ 通信紙 No.25 と 27 参照。
- 6) 録音図書製作グループ
  - ・ 分野 40-50%は文学作品(文字だけで、図表がないために表現しやすい)。
  - ・ 媒体 テープから CD へ移行。

- ・利用者 視覚障害者(目がまったく見え  
ないか見るのが困難、35万人(全人口の  
0.03%)。

- ・録音図書製作グループ年度別製作数。
- ・県立図書館年度別貸出数。
- ・通信紙 No.25 参照。

#### 7) 対面朗読グループ

- ・対象者 1対1で、視覚障害者などへ  
朗読(文学書なら分かりやすいが、専門書  
になるとその分野の専門家でないと正確  
に表現できない)。

- ・県立図書館での年度別実施件数(年齢別  
人数)はどのくらい実施しているのか。  
(県立図書館の対面朗読室は、1F 総合カ  
ウンターの奥隣り)

- ・心理学や専門分野への知識の有無。
- ・通信紙 No.25 と 30 参照。

#### 8) 児童サービスグループ

- ・絵本や紙芝居。
- ・幼稚園児や小学生など。

(県立図書館の児童サービス室は 1F 児  
童図書部門入口附近)

- ・県立図書館児童サービスの年度別人数  
は何人(年齢別人数)。

- ・児童サービスグループ 69 人のうち十  
数名がサービス。心理学や専門分野の知  
識の有無。

- ・通信紙 No.25 参照。

#### 9) 広報グループ

- ・新方針で編集した通信紙 No.25 以降に  
おいて、委員会としての考え方や作業内  
容を記してきた(No.31 と 33)。

#### 10) 特技グループ

- ・活動休止。

桜井 淳